

「豊中市にも関係ありあり！」 「大阪都構想」その2

○何のための大阪都？

大阪市をなくし、くらしをこわす。「大阪市廃止・解体」構想です。

「大阪都」は2010年に橋下知事(当時)が言い出した構想です。ねらいは、ずばり次の3つ。
①大阪市も24区もなくす
②権限・財源を「大阪都」
大阪府に吸い上げ、巨大な大型開発に注ぐ。
③一人の指揮官(知事)でやりたい放題できる体

制をつくる

4年前に橋下市長・松井知事が誕生してやってきたことは、選挙公約やぶりの「地下鉄・市バス敬老バス」の有料化、「住吉市民病院」廃止など市民サービスや施設の削減です。

大阪府でも、公務員賃金カットはいまでもなく、住民サービス施策切り捨てる政治(左上 グラフ参照)をすすめてきました。

東京都ならんで大阪都？

「大阪都」構想といいますが、実は法律にも「協定書」にも「大阪都」の文字はありません。住民投票で決まるのは、「大阪市廃止」構想です。

また、大阪府にも関係のあることにもかかわらず、「住民投票」は府民を対象にせず、衛星都市の市長・住民からも「大阪府」を变えるのに「意見を聞きもしないのか」と批判の声が。

問題だらけの「民間公募」区長や校長を採用し、教育への政治介入。議会が異を唱えると「出直し市長選挙」に6億円の無駄遣い。

この「維新政治」をさらに暴走させるのが「大阪都構想」です。

○くらしはどうなる？

市民・府民のくらしを破壊する

大阪都構想は、大阪府がすすめてきた住民サービスをバツサリ削り、市民向け施設を売り払い、その浮いたお金で1兆5000億円以上の大規模開発をすすめるというもの。

思い出しましょう！

関西空港の開港95年。当時、新空港建設、大阪湾岸ベイエリア計画といって大型箱もの開発に莫大なお金を大阪市・府がそれぞれつぎ込みました。WTC、りんくうゲートタワービルなどに象徴されるゼネコン頼みの浪

費開発の大失敗。

大阪府・市がこの間、借金財政といって社会保障・住民サービス切り捨て、公務員賃金カットをしてきたのは、この80〜90年代の開発失敗の借金の返済があるからです。

○大阪が 発展する？

リニア・カジノで大阪のゆがみ拡大

維新の会は「大阪都」で大阪が発展するといいます。

しかし、庶民のふところや中小企業をあたためるのではありません。万博をやるとかリニアの開業、さらにカジノ誘致などゼネコンがもうかるしくみづくりばかりです。

「カジノ誘致」を大阪都の試金石という橋下市長。大阪の発展をバクチ頼みにしようとしています。すでに世界一のギャンブル大国であり依存症患者も536万人(厚生労働省調査14年8月)といわれています。

■不要・不急の新たな鉄道、道路ネットワーク(一部)

路線名	区間	概算事業費
なにわ筋線	新大阪~JR・南海難波	約2500億円
北大阪急行延伸	千里中央~新箕面	約700億円 (箕面市も負担)
西梅田十三新大阪連絡線	西梅田~十三~新大阪	約1350億円
JR東海道支線地下化・新駅 (区画整理事業含む)	阪急中津付近 ~JR福島付近	約952億円
阪神高速淀川左岸線延伸部	新御堂筋~第2京阪	約3000~4000億円

「経済効果」より「マイナス面」が多く、犯罪の温床となり、経済も人間性も壊れます。

○二重行政解消でムダがなくなる？

○「特別区」になれば住民サービスはよくなる？